

オーガニックビレッジ取組紹介

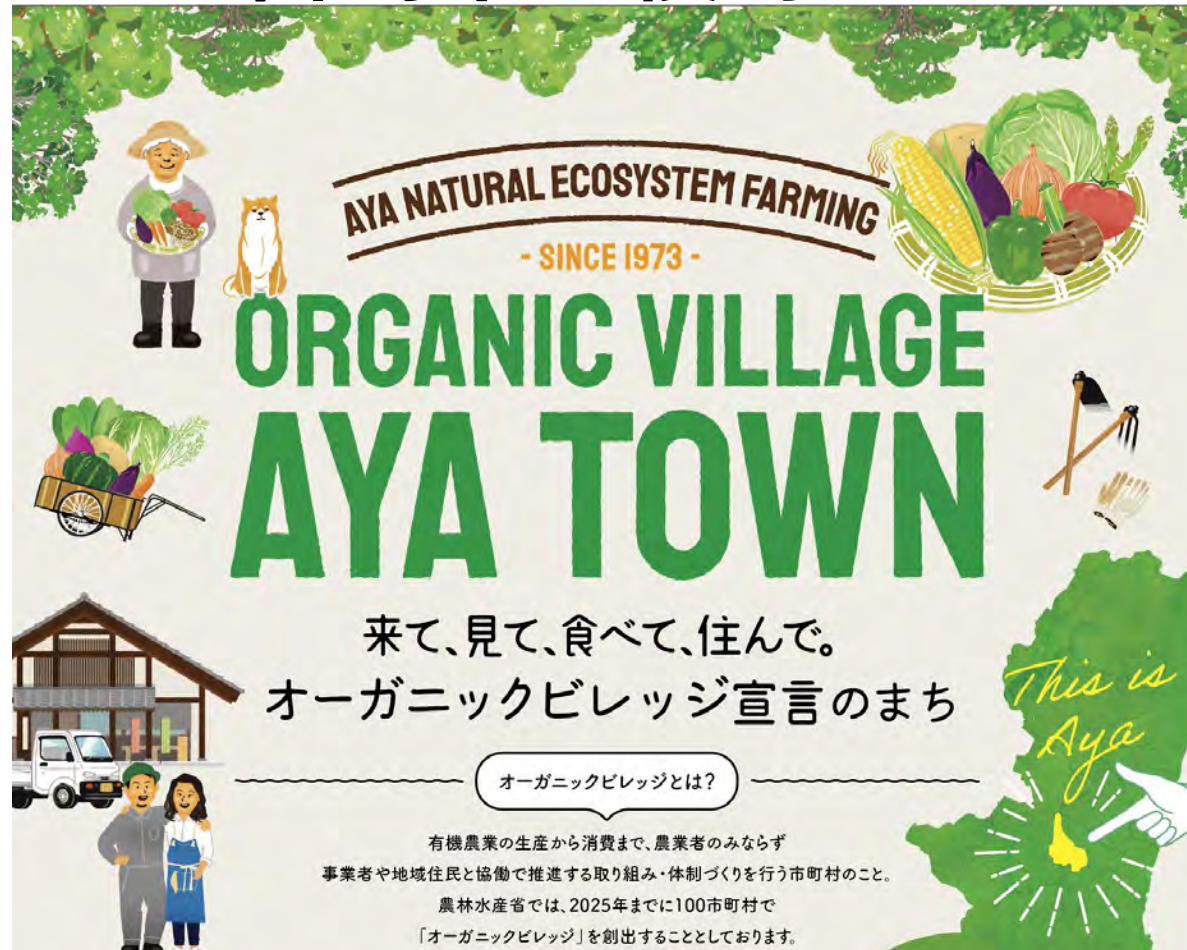
宮崎県 綾町



町旗



町章



綾町自然生態系農業推進会議
<https://aya-organic.com/>



綾オーガニックスクール 特設サイト
<https://aya-organic.com/school/>

令和7年1月16日

綾町長 松本 俊二



目 次

- 0. はじめに
- 1. オーガニックビレッジ宣言
- 2. オーガニック給食
- 3. 綾オーガニックスクール
- 4. 有機農業推進大会
- 5. 課題と来年度に向けて



0. はじめに

宮崎市から北西約24kmに位置

人口約6,600人 (R6.3.1現在)

面積95.19km²

→町の80%が森林

→そのうち80%が国有林

日本最大規模の照葉樹林

→1982(57)年 九州中央山地
国定公園に指定



綾町憲章（昭和58年3月制定）

- 自然生態系を生かして育てる町にしよう
- 健康で豊かな活力ある町にしよう
- 青少年に誇りと希望をいだかせる町にしよう
- 生活文化に創意と工夫をこらす町にしよう
- 思いやりとふれあいで明るい町にしよう

綾町マスコットキャラクター
☆もりりん☆



綾町のまちづくり

- ・ほんものをつくるまち
- ・手づくりのまち
- ・観光イベントのまち
- ・スポーツ合宿のまち



綾手づくりほんものセンター

基本理念

「自然と調和した豊で活力に満ちた教育文化都市」

農業の現状

農家数・農家就業人口

農林業センサス

年	農家数						農業就業人口	
	総数	専業	第1種	第2種	農家率	農家人口	総数	65才以上
昭和60年	781	226	164	391	34.6	3,169	1,293	307
平成2年	680	201	138	341	27.7	2,728	1,123	308
平成7年	642	220	146	276	24.6	2,494	1,111	398
平成12年	460	206	98	156	22.4	2,191	937	396
平成17年	413	215	82	116	14.6	1,446	830	385
平成22年	366	202	68	96	12.8	1,104	690	334
平成27年	331	213	46	72	11.4	971	612	273
令和2年	294	135	16	143	10.0	778	549	320

□オーガニックビレッジ全国集会

1. オーガニックビレッジ宣言

R5.4.28

40年以上前から「自然生態系」を生かす農業（町づくり）を展開してきました。国のみどりの食料システム戦略に併せて、これまでの取組みを発展させ、未来の農業のにつなげようという思いを込めて「オーガニックビレッジ」を宣言しました。

1973年（S48） 一坪菜園の普及と野菜の種子の配布
家庭菜園コンクール

1988年（S63） 「自然生態系農業の推進に関する条例」を制定

1989年（H.元） 綾手づくりほんものセンター開設
有機農業開発センター設置
有機農業推進会議・実践振興会発足

2012年（H24） 「綾ユネスコエコパーク」登録

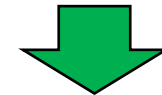


2023年（R5） 「オーガニックビレッジ」宣言

- ・ 森林伐採計画への反対
- ・ 町民の健康維持、食生活の改善



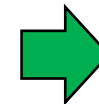
- ・ 自然生態系を守りながら消費者の健康と文化的な生活の確保と健全な土づくりを目指す



- ・ 町づくりの基本となり他分野（商工観光や移住政策等）への展開



郷田 實 氏



前田 穰 氏



2.オーガニック給食



R5.3

「綾町オーガニック給食の推進に関する条例」を制定

学校給食における野菜については、町独自の認証制度に基づき認証された野菜を積極的に取り入れており、同時に地産地消の推進を行っています。今後さらに学校給食へ多くのオーガニック食材を提供することで、将来を担う子どもたちが食や環境への関心、郷土愛を深めていくことにつながります。

【近年の取組み】

令和5年度

- ・ワーキンググループ 4回開催
- ・先進地視察研修
(福岡 ふたば幼稚園 伝統和食)
(東京 武蔵野市 給食センター)

令和6年度

- ・ワーキンググループ 2回開催
- ・有機米の取組みの開始
12月～小中学校へ提供開始
(生産者5名、収量計4.2 t)
紙マルチ田植機、アイガモロボット一部活用

NHK宮崎WEB特集

NHK宮崎 > 宮崎WEB特集 > “有機野菜の価値”を知る給食 AYAオーガニック給食DAY

“有機野菜の価値”を知る給食 AYAオーガニック給食DAY
ベジ価値UPキャンペーン

2023年01月18日

#WEB特集



この日のメニューは「七草寿司」(左前)・「魚そうめん汁」(右前)・「綾野菜と大豆の炒め煮」(中央奥)、そして「牛乳」です。



このうちの炒め煮に、7種類の有機JAS認証の野菜が入っています。人参・大根・赤大根・ほうれん草・キャベツ・白菜、そして原木シイタケ。味はどうだったのか聞いてみると・・・

3-1. オーガニックスクール

有機農業を学べる学校

有機農業の生産者育成と栽培技術の継承を目的に令和5年6月10日に開校

R6.4入校式・記念撮影



スクール講師（アヤオーガニックワークスメンバー）



スクールの運営体系

事業主体：
綾町自然生態系農業推進会議
(事務局 役場農林振興課)

↓ 委託

運営主体：
合同会社アヤオーガニックワークス

1期生1名、2期生3名の計4名の研修生は、綾町の自然生態系農業の理念や取り組み、農業経営、土づくり、栽培技術、農業機械の操作を学び、1年後と2年後に綾町での就農を目指します。また、地域おこし協力隊としても活動しており、地域密着型のスタイルで地元にも貢献しています。

(令和6年度主な活動)

・耕作放棄地の整備、熊本県南阿蘇村研修、就農相談会への参加、郷土芸能への参加etc



研修生実習の様子

3-2.オーガニックスクール



・実践的な技術：陽熱処理、湛水防除、輪作体系

太陽熱処理中の圃場（人参）



畑かんを利用した湛水防除



天敵温存植物の活用（ソルゴー）



・専門的な座学講座：R6土づくり、天敵について（各5回開催）併せてほ場調査も実施

○土づくり講座 環境土壌クリニック 神原 哲士氏

1	古くて新しい農業技術 バイオスティミュラントや緑肥を活用して持続的な有機農業の実践へ
2	実践！畑でマイクロバイオティクス 身近な資源（プレバイオティクス）を活かして微生物（プロバイオティクス）の力を引き出す土づくり
3	有機農業だからこそスマート化の検討を！ 土壌中の有機物や養分を視える化して、実践的な管理に活かす
4	土の'触診'してみませんか？ 畑の土の硬さ一つから見えてくる土壌の物理性
5	土の健康診断していますか？ 診断データを読み解いて、土壌や作物、微生物に良い食生活（施肥設計）を考えませんか？

○天敵利用講座 宮崎大学農学部 元教授 大野和朗 氏

	畑で害虫が増えるメカニズム
1	目からうろこ？病虫害防除で見逃されている取組み
2	害虫を抑えてくれる天敵とは～何でも屋とスペシャリスト 大きく二つに分けられる天敵のキャラクターを知ること
3	生態系の重要原理を畑に導入 原理といえば難しそうですが、取組みはシンプル
4	応用編～自分の畑や周辺環境に合わせたデザイン 皆さんの畑に合わせたデザインを
5	持続可能な農業から再生可能な農業へ 環境にやさしい農業から、地球環境を創る農業へ

□オーガニックビレッジ全国集会

3-3.オーガニックスクール



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

持続可能な未来へ 綾町編
宮日SDGsプロジェクト 月1回掲載

GROUP 綾オーガニックスクール

有機農業担い手育成

宮日綾酒泉の杜の近くにある耕作放棄地。強い日差しの下、綾オーガニックスクールの生徒らが雑草を刈り、ビニルハウスの残骸を拾い集めるなど整備作業に汗を流していた。同スクールは2023年6月に開校し、生徒は1期生1人、2期生3人。いずれも綾町地域おこし協力隊の隊員を兼ね、2年間の在学期間中に日曜を除く週6日、町内の畑や作業場で有機農業を学び、卒業後は同町での就業を目指す。

同町は「自然と人の共生」を理念として掲げ、半世紀ほど前から全国に先駆けて有機農業を推進する。持続可能な循環型の「自然生態系農業」だ。それに伴い、全国から有機農業を志す移住者が増え続けた。しかし生計を立てるまでに至らず、同町を離れてしまうケースも少なくなかった。また有機農作物の需要が高まる一方で新たな担い手の確保が課題となっており、同町の松井道生さん(63)ら有機農家4人で設立した合同会社アヤオーガニックワークスが同スクールの運営に乗り出した。

同スクールのカリキュラムは農業機械の操作や栽培技術、農業経営手法など、どれも実践的だ。耕作放棄地整備も授業の一環で行われ、畑や水田として復元した後は

実践的指導、生徒も手応え

卒業生が利用予定。整備することによって害虫の発生が防げるため近隣の農家も助かり、卒業生が地域に溶け込みやすくなる。

授業は慣れない作業の連続だが、東京から移住した2期生の田中宏太(24)、幸(28)さん夫婦は国産コトヒ豆を作るといふ夢があり「体力的に大変だが農作業は楽しい」と目を輝かせる。「プロの農家と一緒に作業しながら学べるのがうれしい」と話すのは元介護士で1期生の古川義久さん(43)。「本物の人や作物に触れる、生徒たちは手応えを感じている」。

カリキュラムには座学もあり、昨年に続き環境土壤学クリニク(日南市)代表の神原哲士さん(41)が土づくり、元宮崎大学農学部教授の大野和朗さん(68)が天敵利用をテーマにした講座を綾町有機農業開発センターで各自開いた。2期生の寺師成徳さん(31)は「授業に付いていくのは大変だが、学ぶことが自分の身になると思えるから頑張れる。将来は得意の英語を生かして外国向けの農家民泊もやってみたい」と意欲的だ。

同スクールと生徒たちの熱意は、同町の有機農業を持続させることにも「動きがよい経済成長も」実現しようとしている。

主耕作放棄地の整備に協賛する綾オーガニックスクールの生徒たち(左)綾町内外の農家も受講した綾オーガニックスクールの授業(右)

宮崎日日新聞 R6.10.19

2024年(令和6年)6月25日(火曜日) 第2版

**広がれ有機
手厚い学びや**

宮崎県綾町で開校

栽培・経営を体系的に◆町外から移住も

修了後の販路確保で安心

綾町は、有機農業で知られる綾町は、長年にわたり自然と人が調和する町づくりを進めてきた。国民が求める環境保全など、人が自然と共生する取り組みは、まさにSDGs(持続可能な開発目標)の先駆けだ。現在では後継者育成や次世代への啓発活動も教育現場などで積極的に進められ、第1歩に成果を積み重ねている。

(記者 企画委員・黒木友貴)

人の「暮らし」を、農業の「暮らし」に近づける。綾町の目指すのは、農業の「暮らし」を、人の「暮らし」に近づけることだ。綾町は、農業の「暮らし」を、人の「暮らし」に近づけることだ。綾町は、農業の「暮らし」を、人の「暮らし」に近づけることだ。

日本農業新聞 R6.6.25

様々なメディアにも取り上げていただき、有機農業を学ぶスクールの活動を全国へ発信しています。栽培や経営について体系的に学ぶ超実践形式であることや耕作放棄地をスクールで整備して卒業業後に自らの農地として活用すること、農産物の販売先が確保されていること、地域おこし協力隊として地域活動へ参加していることは特に関心を寄せられています。

□オーガニックビレッジ全国集会

4. 有機農業推進大会

R6.11.10 第33回有機農業推進大会を開催しました。

生産者と消費者をつなぐ大会で、毎年テーマを決めて講師を招いています。今年度は、有機給食で先進的な取組みをされている 福岡市 志賀島学園 理事長 小崎 孝子 氏をお招きして、伝統和食についての重要性についてご講演いただきました。

大会に併せて、地産地消や有機野菜をテーマに綾小学校5年生に標語を作ってもらいました。最優秀賞は、「新鮮な 野菜をたくさん かぶりつく」でした。

そのほか、オーガニックスクール生、農協青年部の意見発表なども行いました。第1部が終了すると、小崎先生のレシピを元に綾町産オーガニック野菜をたっぷり使ったお味噌汁のふるまいを行いました。約200名の参加がありました。今後も消費者と生産者が一同に介し、共通の話題をともに学ぶ機会をつくってきたいと考えています。

オーガニックスクール生 意見発表



おみそ汁のふるまい



第33回 有機農業推進大会 in Aya 第1部

テーマ：「自然生態系農業の再発見!!」

参加費
無料

【申込期限】

令和6年11月8日(金)

【お問合せ・お申込み先】

綾町役場 農林振興課

電話 0985-77-0100

F A X 0985-77-0962

と き 令和6年11月10日(日)
9:30~12:00(受付8:50)

ところ 綾町公民館文化ホール

(予定内容)

●功労者・標語表彰

●意見発表

(自然生態系農業について、オーガニックスクールの取組み、農協青年部活動報告)



●基調講演 小崎孝子 先生(学校法人 志賀島学園 理事長)

演題：「日本の伝統和食が未来の子どもたちを救う」

福岡県志賀島出身。ふたば幼稚園園長。日本の伝統食を給食に取り入れながら、子どもの自由を保障した遊びつくす保育を展開。発達障害、自閉症、アトピー罹患の子どもたちを改善に導く。

●ふるさと納税返礼品 大抽選会

参加された方の中から、抽選で10名の方に人気の返礼品が当たる!

第2部

オーガニック野菜たっぷり
おみそ汁のふるまい
(小崎孝子先生のレシピ付)

と き 令和6年11月10日(日)
12:30~13:30

ところ 綾町高齢者研修センター

参加費
無料

【参加資格】 第1部「有機農業推進大会」に参加した方(町内外は問いません)

【申込期限】 定員になり次第終了

※同時開催の農業祭で、野菜の直売も行います。





5.課題と来年度に向けて

(課題)

- ・オーガニックスクール卒業後の支援体制について
農業関係支援資金のサポート体制や農地確保。
- ・施設野菜の取組み体制の見直し
基幹品目である施設きゅうりの減農薬体制（天敵活用）の構築。
(みどり交付金 グリサポ事業活用中)
- ・有機米の取組み拡大
有機給食米の面積及び収量拡大、エリアごとに有機と慣行を分ける。
紙マルチ田植え機、アイガモロボットなどの機械導入による省力化。
- ・有機農業推進大会の継続とPR活動の充実
消費者への理解醸成のため、内容ある大会運営を行う。
イベント集客力向上のため、生産者と連携した取組みを展開。



オーガニックスクール生の募集相談会



R6.12～有機米給食導入



天敵を利用したハウス栽培視察
(高知県)

ご清聴ありがとうございました